

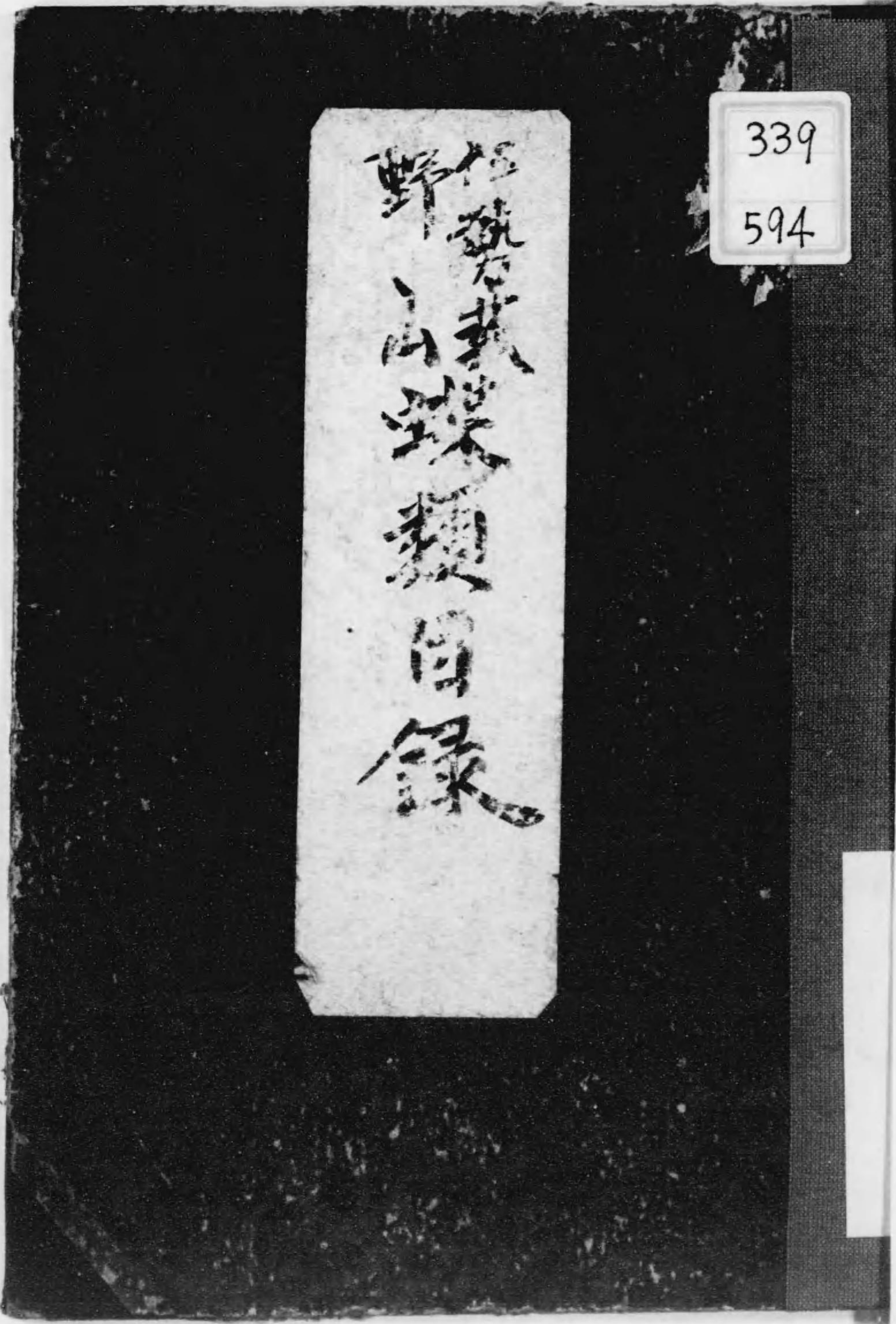
始



339

594

野嶽石其  
山蹊類  
目錄





339  
594

A LIST  
OF  
RHOPALOCERA

*in*  
*Komonoyama, Ise*

*Published*

*By*

*Yokkaichi entomological Society.*

*Ise, Japan.*

1915

伊勢菰野山

蝶類目錄

四日市昆蟲研究會

發行

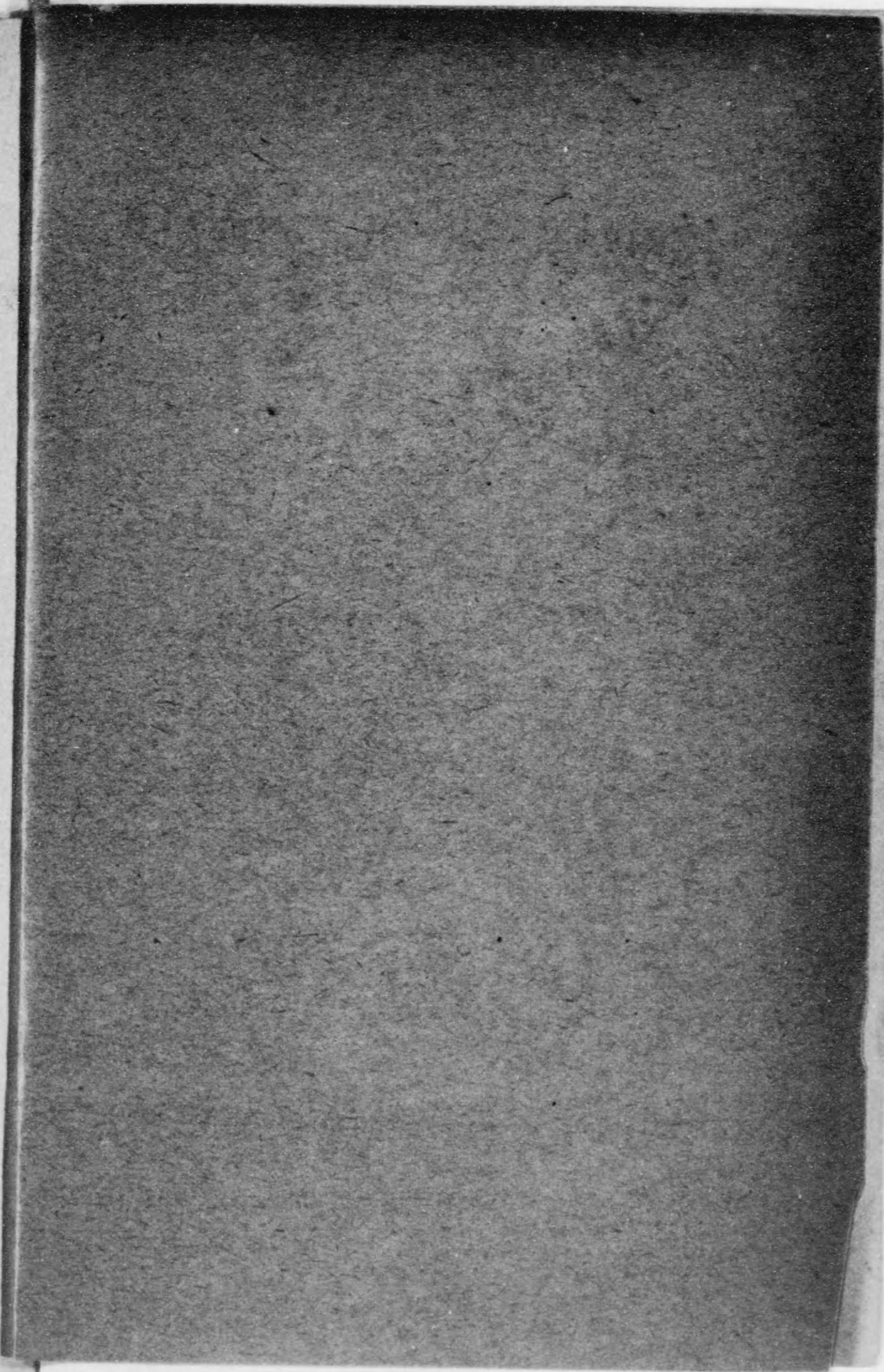
大正四年十一月



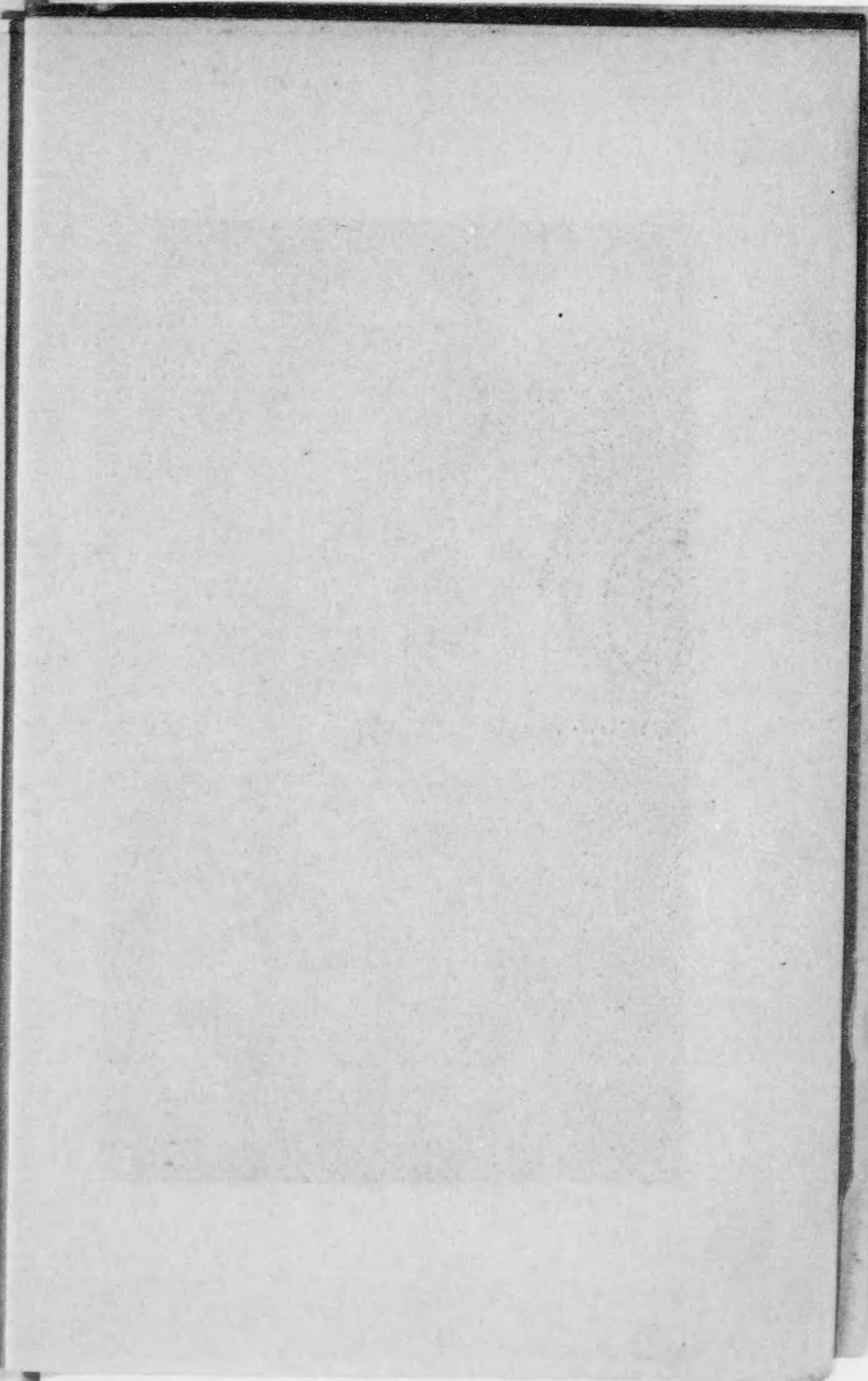
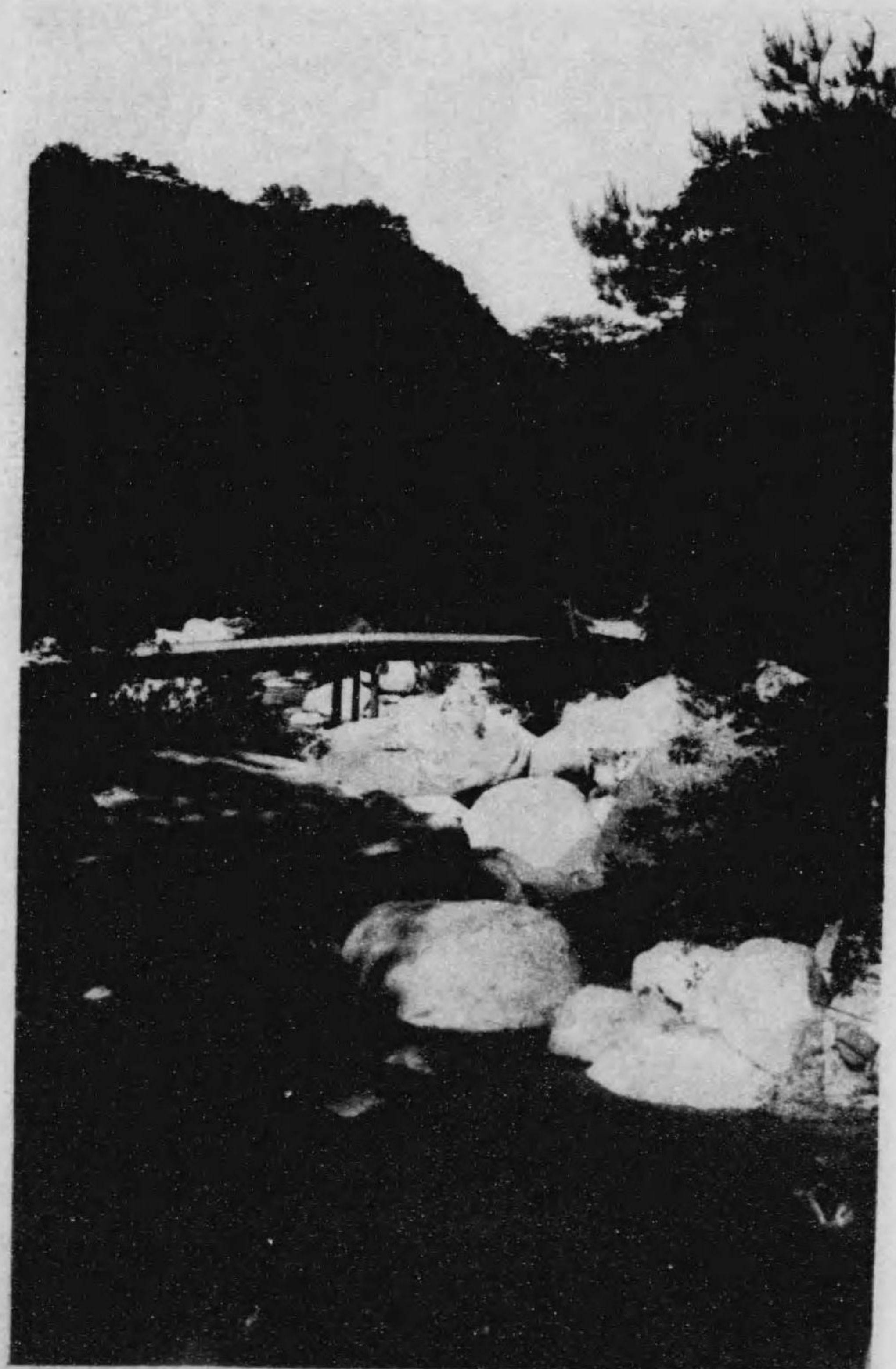


大正  
4. 10. 28  
内交





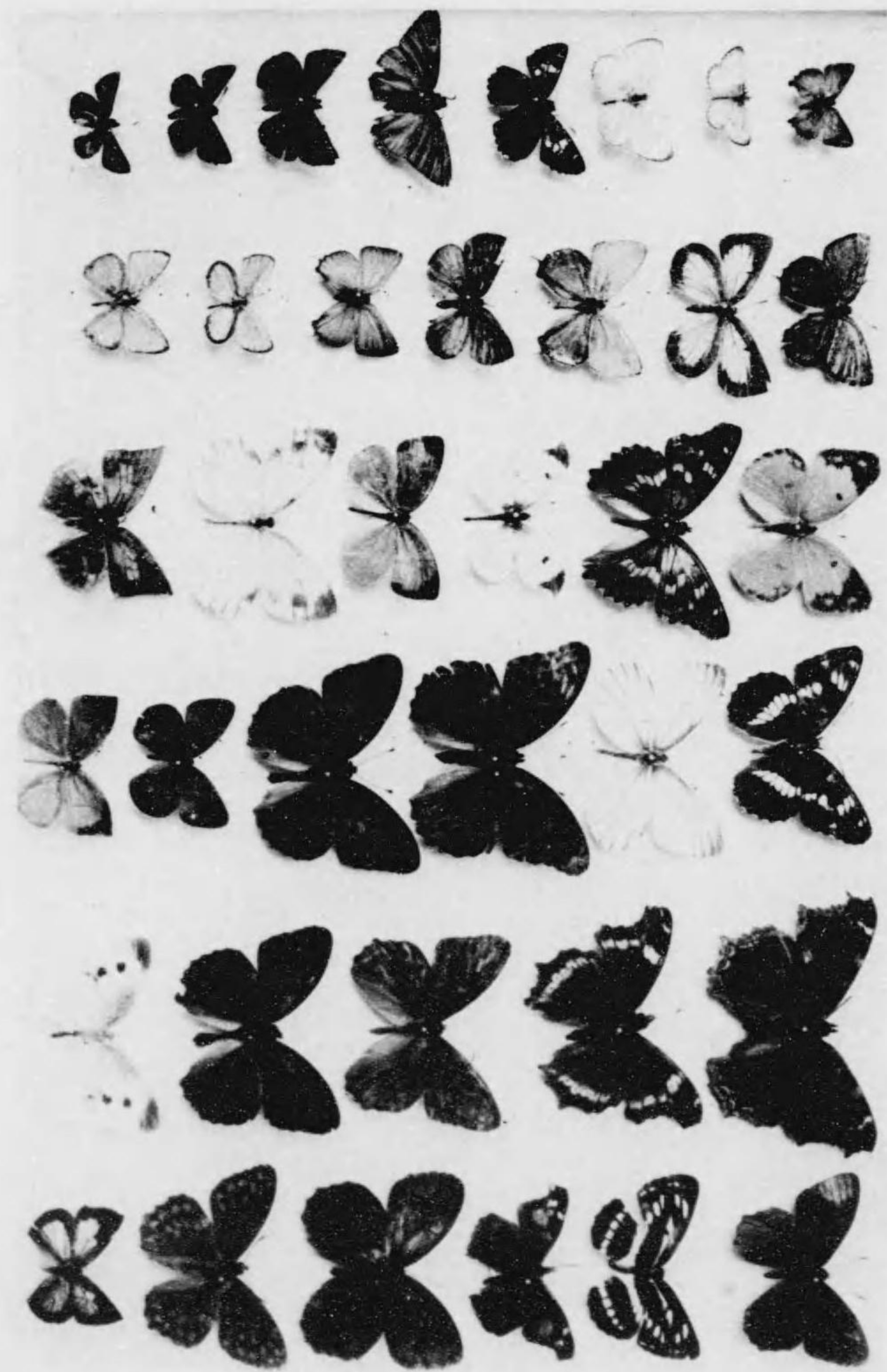














## 菰の山蝶類目録

はしがき

北勢の勝地湯の山の地たるや植物の種類に富み採集地として好適地たるは古今人の口にし又文書にも公にせし所にして彼の風土記に塵生野多異竹とありて今茲に喋々を述ぶるの不必要なるは言を俟たざるなりために植物採集に登山するもの日に月に其數を増加す然るに之に反して種族に富める植物に密接の關係を有する昆蟲に關しては古今未だ口にし又公言せし人あるを聞かず之れ大に遺憾とする所なり余は同山附近の採集に絶好の土地たるを夙に稱へたために登山せし人は岐阜市財團法人名和昆蟲工藝部主任たる名和正氏外所員等にて續て前京都烏津標



二  
本製作所附屬花園昆蟲研究所長鈴木元次郎氏にして余は以上の人々も採集を共にし年々登山するに昆蟲の種類に富み殊に鱗翅類中蛾類の如きは種類多くして就中珍種及び稀種を産すること少なからざるを確信し今少しく月日を費し採集に従事せば効果あらむとて去明治四十二年の如きは四月より十月に亘りて湯の山に居を定めて助手及び雇員と共に晝夜を別たず採集し蛾類の如きは燈火糖蜜採集を以て大々の採集せしに其効空しからずして採集中には大に見るべきものありて専門學者の参考の一助にもならむものも少なからざりし故に同好者の参考に供せむため蛾類目録を編するにあれども該目録は少しく時日を費さざるべからざるを以て他日に譲り蛾と關係深き蝶類の目録を編して蝶の種の少なからざること又同山の植物採集と相俟つて昆蟲採集にも好適

地なるを紹介せむとて茲に小冊を公にすることよなせり然れども該目録を以て完全なりと云ふ能はず何となれば今日の如く益々斯學研究に従事する人續出するに及んでは他日新種として未だ本邦に發表せざりしものを發見するやも計り難し余も益々採集の巧を積みて此目録の完全の域に達せむことを期す終りに臨みて本書は御大禮記念として泗水昆蟲研究會より發版せしものにて其心して一讀せられむことを希ふ。本書を編するにつき會員熊澤純之介氏の多大なる助力を深謝す。

大正四年八月三十一日

編者 しるす



凡例

- 一、該目録は菰野山目録なれども菰野村附近一帯の地を含む。
- 一、本書中の和名及び學名はすべて理學博士松村松年氏に従へり。
- 一、目録中鳳蝶科粉蝶科蛺蝶科は和名統一して使用せられ居れども小灰蝶科及び挿蝶科に至りては各自異名を用ゐ居れるを以て其心して一覽せられたし。
- 一、該目録中にて同地方として普通に産せざる理由なきものにて記載なきものは未だ採集及目撃せしことなきを以て後日確証の上補遺す。
- 一、目録中の蝶類は北勢地方に産するものとなすを得べし。
- 一、口繪蝶類は既知産を全部配列する都合なりしも寫影の都合上之を除けり。

口繪説明



第一圖 菰野湯の山全景

第二圖 全淚橋附近

第三圖 菰野山蝶類(十六種)

右 上

オナガアゲハ。キアケハ。アサギマダラ。ジャコウアゲハ。アオスヂアゲハ。

ギフテフ。カラスアゲハ。サカハチテフ。クロアゲハ。メスグロヒヨモン。ヒメアカタ

テハ。アカタテハ。キタテハ。ゴマダラテフ。スミナガシ。

第四圖 全

(三十八種)



RHOPALOCERA 蝶類

A. Papilionidae 鳳蝶科

1. Papilio xuthus L.  
アゲハ
2. P. machaon hipperates Feld  
キアゲハ
3. P. bianor Cram.  
カラスアゲハ
4. P. demetrius Cram.  
クロアゲハ
5. P. macilentus Jans.  
ヲナガアゲハ
6. P. plutonius Ober.  
ジヤコウアゲハ(ヤマジヤロウ)
7. P. sarpedon nipponus Fruhs.  
クロタイマ(アオスチアゲハ)
8. Luehdorfia puziloi japonica Leech.  
ダンダラテフ(ギフラフ)

B. Pieridae. 粉蝶科

1. Pieris rapae cruoivora Btlr.  
モンシロテフ
2. P. melete massira Fruhs.  
スチダテフ
- 7 P. melete juba Fruhs
3. Midea scolymus Btlr.  
ツマキテフ
4. Colias hyale L.  
モンキテフ
5. Terias hecabe L.  
キテフ

右  
上  
ヨ  
リ

クロヒカグ。コミスヂ。テングテフ。ジヤノメテフ。キマダラヒカグ。ムラサキシ  
ミ。ヒオドシテフ。ムラサキタテハ。ヒカゲテフ。ウラギンスヂヒヨモン。モンシロテ  
フ。イチモンジテフ。スチダテフ。ミドリヒヨモン。オホウラギンヒヨモン。ヒメウ  
ラナミジヤノメ。ツマダテフ。モンキテフ。コムラサキ。ツマキテフ。キテフ。モ  
ンシロテフ。ウラギンシバミ。ムラサキツバメ。ウラゴマダラシバミ。オホミドリ  
シバミ。クロシバミ。トラフシバミ。ツバメシバミ。ウラナミシバミ。コツバメ。ヤマ  
トシバミ。ルリシバミ。ダイメウセ、リ。アオバセ、リ。ミヤマセ、リ。コキマダラセ  
、リ。



13. A. nerrippe Feld  
オホウラギンヘウモン
14. A. laodice japonica Men  
ウラギンスチヘウモン
15. A. Sagana Dbl.  
メスグロヘウモン
16. A. paphia L.  
ミドリヘウモン

E. Danaidae 班蝶科

1. Danais tytia niphonica Moor  
アサギマダラ

F. Satyridae 蛇目蝶科

1. Satyrus dryas Scop.  
ジャノメテフ
2. Ypthima baldus argas Btlr.  
ヒメウラナミジャノメ
3. Neope gaschkevitschii Men  
キマダラヒカゲ
4. Lethe diana Btlr.  
クロヒカゲ
5. L. siscelis Hew.  
ヒカゲテフ
- 九 6. Mycalesis perdiccas Hew.  
コジャノメ

G. Lycaenidae. 小灰蝶科

1. Rapala atrata Brem.  
トラフシバミ
2. Satsuna ferrea Butl.  
コツバメ

6. T. laeta Bdr.  
ツマグロキテフ

C. Lybytheidae. 天狗蝶科

1. Libythea celtis lepita Moor.  
テングテフ

D. Nymphalidae 蛺蝶科

1. Dichorragia nesimachus Bdv  
スミナガシ
2. Diadora subviridis Leech  
ゴマダラテフ
3. Apatura ilia Schif.  
コムラサキ
4. Limenitis camilla japonica Men.  
イチモンジテフ
5. Neptis hylas L.  
コミスチテフ
6. Pyrameis indica Hbst.  
アカタテハ
7. P. cardui japonica Stichel  
ヒメアカタテハ
8. Venessa xanthomelus Esp.  
ヒオドシテフ
9. V. canace L.  
ムラサキタテハ
10. Polygonia C-aureum L.  
キタテハ
11. Araschnia burejana strigosa Btlr.  
サカハチテフ
12. Argynnis adippe pallescens Btlr.  
ウラギンヘウモン



3. *Helpe varia* Murr.  
コチャバネセ、リ
4. *Parnara mathias* F.  
チャバネセ、リ
5. *P. guttatus* Brem.  
イチモジセ、リ
6. *P. pellucida* Murr.  
オホチャバネセ、リ
7. *P. jansonis* Butl.  
ミヤマチャバネセ、リ
8. *Rhopatocampta Benjamini* Guer.  
アオバセ、リ
9. *Daimio thetys* Mén.  
ダイメウセ、リ
10. *Hesperia maculatas* Brem  
チャマダラセ、リ
11. *Isoteinon lamprospilis* Feld  
ホソバセ、リ
12. *Thanaos montanus* Brem.  
ミヤマセ、リ

3. *Polyommatus boeticus* L.  
ウラナミシバミ
4. *Niphanda fusca* Brem.  
クロシバミ
5. *Arhopala japonica* Murr  
ムラサキシバミ
6. *A. turbata* Butl  
ムラサキツバメ
7. *Curetis acuta* Moor.  
ウラギンシバミ
8. *Zephyrus taxila* Brem  
オホミドリシバミ
9. *Chrysophanus phlaeus* L.  
ベニシバミ
10. *Lycaena argiades* Pall  
ツバメシバミ
11. *L. euphemus* Hb  
ゴマシバミ
12. *Lycaena pryri* Murr.  
ウラゴマダラシバミ
13. *Zizera maha* Mén.  
ヤマトシバミ
14. *Tarka hamada* Druce.  
シモフリシバミ
15. *Cyaniris argiolus* L.  
ルリシバミ

H. Hesperidae 挿蝶科

1. *Augiades sylvanus* Esp.  
コキマダラセ、リ
2. *A. ochracea* Brem.  
ヒメキマダラセ、リ



鳳蝶科

十二

一、アゲハ

翅は淡綠色にして黄色及び黒紋黒條多くして翅縁翅脈も黒色なり木邦最も普通の種にして俗にカミナリテフと稱するものにして尾狀部を有し深黒なり春生は夏生に比して小形にして淡綠色部多く夏生は大形にして黒色部多し。

二、キアゲバ

アゲハに一見して酷似すれども翅は濃黄色にして黒紋黒條を有し後翅は黒色部廣く中に藍色の斑紋及び赤色斑紋を有す夏生は春生より大形にして色彩一般に濃し。

三、カラスアゲハ

全翅は青藍色を帯べる黒色にして金色の光を有し殊に翅の基部に多くして前翅後縁に近く天鵝絨様の部分あり後翅も同じ夏生は春生に比して形大にして色彩には變化少し

蝶類中美麗種の一なり。

四、クロアゲハ

全翅黒色にして後翅に赤色斑紋あれども裏面より見れば一層明なり此の種は雌雄色彩を多少異にして雌は一般に雄よりも大形にして色彩も淡くして後翅前縁の白帯なく後翅の赤色斑は大にして著しく明なり雄は尾狀部短くして黒色なり。

五、オナガアゲハ

クロアゲハに酷似する色彩を有すれども翅は一般に狭くして長味を有す雄は後翅前縁に蒼白色の帯あれども雌にては之を缺く此種は名の示すが如く尾狀部は他の種に比して長し。

六、ジャコウアゲハ

全翅は黒色にして褐色を帯す雌雄色彩を異にし雌は色彩著しく淡くして尾狀部長し雄は一種の香氣を出すを以て此の名あり雌は其香氣弱し。

十三



七、アオスチアゲハ

翅は黒色にして前後翅を貫きて淡青緑色の方斑列ありて中形の蝶にして美麗なり。

八、ギフテフ

翅は黄色にして前翅に三黒條斜にあり後翅には碧色及び赤斑ありて黒色と黄色のダンダラ状をなす故に一名ダンダラ蝶と稱す小形種にして美麗種の一にて稀なる種なり。

粉蝶科

一、モンキテフ

全翅は白色にして基部暗黒色にて翅尖に黒斑あり雄は中央に二黒紋を有す雌は淡くして往々紋を缺く後翅は一般に少しく黄色を帯ぶ殊に翅の中央を貫く一黄色條は明なり季節により多少の色彩に變化あり田野に最も普通なり。

二、スチグロテフ

モンシロテフに酷似すれども翅脈黒色なるを以て此の名稱あり春生は夏生に比して小形にて黒斑少し。

三、ツマキテフ

優美なる小形種にして前翅の尖端部は釣状を呈す中央に黒斑を有す雄の翅尖は橙黄色にして雌は淡黄色なり後翅の裏面は基部より中央部に不規則なる草色の雲状斑あり。

四、モンキテフ

全翅黄色にして前翅中央に一黒斑を有す又後翅の縁部も黒色にして中央に橙色の斑點あり故に此の名あり此の種は成蟲にて越年あるを以て一名オツチンテフ雌は黄色にして淡黄色の三形を有す普通種なり。

五、キテフ

全翅黄色にして此種は色彩に最も多く變化を有し春生は小形にして全翅黄色にて前翅尖部の黒斑は甚だ淡くして無きが如し又無きものもあり夏生は前翅の外縁部に著しき



黒條を有す後翅も又有することもあり以上の兩形の外中間形のもの甚だ多し。

六、ツマグロキテフ

前種に酷似すれども全翅濃黄色にして前翅尖端より外縁に亘りて黒斑あり故に此の名稱あり春生のものは前翅外縁部殆んど一直線をなして翅尖直角形をなす夏生のものは圓味を帯ぶ裏面は前翅背縁は橙黄色なりキテフの夏生に酷似すれども前翅の直角にて別つを得。

蛺蝶科

一、スミナガシ

翅は黒色にして綠色或は藍色の粉鱗を混じ白斑多し外縁部の白色のV字狀紋と新月紋列とを有す裏面は一般に紫色にして白紋及び黒點明なりスミを流したる色彩なるを以て此の名あり。

二、ゴマダラテフ

此種は發生の季節によりて色彩に變化あり中形種にして翅は黒褐色にて蒼白斑紋多くして後翅は斑紋大にして白斑は中央列と外縁列とをなす。

三、コムラサキ

翅は帶黄褐色にして基部中央部縁部は黒褐なり翅尖に近く白點ありて雄の翅は黒褐色にして光線方向によりて金光性の美紫色を呈す雌は此の色彩なし。

四、イチモンジテフ

翅は黒褐色にして前翅より後翅を貫きて白色紋の一系列に連る前翅々尖に二白點を有す裏面は兩翅共に美なる黄茶色なり。

五、コムスジテフ

翅は黒褐色にして前後翅を貫きて三條の白帶あり裏面は茶褐色にして白紋明なり。

六、アカタテハ



前翅は淡き柿色を呈し黒班紋を有し翅尖より外縁に亘りて黒色にして大小の白斑を有す後翅は暗褐色にて外縁部は淡き柿色にして黒班列を含みて内方に黒班點あり。

七、ヒメアカタテハ

前種に酷似すれども稍や小形にして柿色部は前種より多し。

八、ヒオドシテフ

翅は赤黄色にして美麗なり翅縁は黒色帯及び半月状の青紫色紋列あり前翅は大小數個黒班を散じ後翅の外縁に稍や大なる黒班を有す。

九、ムラサキタテハ

翅は一般に黒色にして藍色を混す黒點を列せる碧色の廣帯を前翅角より後翅肛角に亘りてあり中室の前方に白斑あり瑠璃色を呈するを以て此の名あり。

一〇、サカハチテフ

此種は春生は夏生と別種の觀あり即ち春生は小形にて翅は帯褐黒色をなして赤鳶色の

斑を有し翅の中央を貫きて廣き帯あり全翅に亘りて倒八文字をあらわすを以て此の名あり夏生は黒色の部分多くして赤鳶色の部分少くして外縁に橙色の波狀紋前翅に一個後翅に二個あり小形種の美麗種なり。

一一、キタテハ

翅の表面は赤黄色にして其の濃淡に差異ありて雌雄共に翅縁の出入多く翅縁の突起は尖れり前翅後翅に各々黒點數個を有し裏面は黄褐色にして不規則極まる波狀線多し後翅の中央のC字形の紋理は銀白色を呈す。

一二、ウラギンヘウモン

後翅の裏面は淡黄褐色に綠色を帯ぶ。大形なる銀白色紋多し後翅裏面の外縁部にある白紋は弦月形をなす。

一三、オホウラギンヘウモン

前種に酷似して大形にして後翅裏面の外縁部にある白色紋は斷線形をなす。



一四、ウラギンステヘウモン

後翅裏面の内半部は帯緑黄白色にして外半部は黄褐色なり此の二部の界には不正銀白  
條斑ありて切れくながら中央列になす色彩に變化多き種なり。

一五、メスグロヘウモン

雌雄は色彩を異にすること著しく別種の如し雄は表面ウラギンヘウモンに酷似し雌は  
表面帯緑黑色にして前翅の中央及び前角に近く白斑ありて横例す前翅裏面は灰色にし  
て前角綠色なり後翅は一般に綠色なり翅に他のヘウモンの如く橙黄色は一切交へず。

一六、ミドリヘウモン

雄は前種に酷似す後翅裏面は綠色にして銀白なる廣き带状のものあり又内半部にも同  
色の二短條あり。

班 蝶 科

一、アサギマダラ

前翅黒褐色にして淡青色班紋數個を有す外縁部には大小白斑列各一個を有す後翅は褐  
色にして基部過半は淡き青色を呈し脈も亦茶褐色なり雄は後翅肛角に黒天鵝絨色の發  
香腺班を有す。

蛇 目 蝶 科

一、ジャノメテフ

大形種にして翅の表面暗褐色を呈し前翅には中心に淡碧色を有する眼黒紋あり後翅に  
小形の眼紋一個あり後翅の外縁は鋸齒狀をなす。

二、ヒメウラナミジャノメ

小形種にして翅の表面は暗褐色にて前翅に一服紋を有し黄色環と中心に二青色點を有  
す後翅に同色の紋大小五個を有す。



三、キマダラヒカゲ

中形種にして翅の表面は黄褐色にて黒褐色部に數多の黄班を有す紋の中心に黒點を有す環形紋列あり極めて普通種にして季節により大小色彩は異なり。

四、クロヒカゲ

翅は暗黒色にして前翅の裏面には微かなる三紋を有す後翅は六紋を有す眼紋は中心白色にして黄環を有す其の色彩及び大小に變化多し。

五、ヒカゲテフ

翅の表面は帶黄褐色を有す前翅に淡色横帯を有す後翅に判然せざる邊縁條と眼狀紋四箇あり裏面は表面よりも色淡し此種も形及色彩に變化多し。

六、コジャノメ

全翅暗色にして前翅に大小の蛇目紋ありて後方のもの大なり後翅臀角に近く大眼形紋あり。

小灰蝶科

一、トラフシジミ

翅は紫碧色にして前後翅を貫きて蒼白帶あり後翅の臀角部に紅橙色あり裏面は白帶黒帶相交り虎斑の模様をなす。

二、コツバメ

翅は瑠璃色にして背縁より外縁に黒色あり裏面は濃褐色及白色の沈狀帶あり。

三、クロシジミ

翅は黒褐色にして紋理なく縁毛は鈍白色なり裏面は一般に暗灰色にして前縁の基部に黒斑あり。

四、ムラサキシジミ

翅は濃紫色にして後翅に尾を有せず裏面は灰褐色にして暗褐色帶あり。



五、ムラキツバメ

前種に似たれども黒色にして其先端白き細き尾を有す裏面は灰色を有する濃褐色の斑あり。

六、ウラギンシジミ

雌雄翅の色彩を異にし雄は美麗にして前翅は紅橙色にて其周囲は黒くして雌は雄の紅橙部蒼白色を呈す裏面は雌雄共に銀白色にして光輝あり。

七、オホミドリシジミ

雌雄色彩を異にしたる美麗種なり雄は光輝ある金綠色を有し周縁は黒色にして縁毛は灰白色なり雌は多形にして黒色部廣く一部美紫色を呈す又は全翅暗黒色なるあり雌雄共に尖端白き黒色の尾を有す。

八、ベニシジミ

前種は紅橙色にして周縁黒色なり黒斑を有す後翅は大半黒色にして外縁は不規則なる

赤色帯あり黒斑を有す夏生のものは形大にして黒色部廣し。

九、ツバメシジミ

色彩を異にし雄は瑠璃色にて縁は巾狭く褐色なり後翅は外縁に二三の黒點を有す雌は暗褐色にして雄の黒點部は橙黄色にして圍まる裏面は灰白色にして褐色點一列あり共に後翅に尾を有す。

一〇、ゴマシジミ

雄は藍色を呈し邊緣は黒褐色なり黒點を有し縁毛は白色なり雌は暗褐色にて點紋なし

一一、ルリシジミ

雄は瑠璃色を呈し周縁は黒色を帯ぶ雌は黒褐色にて裏面は共に蒼灰白色にて前翅の外縁部に黒點列あり。

一二、ヤマトシジミ

雄は藍色にして邊緣は暗褐色なり雌は暗褐色にて中部紫色を呈す裏面は共に灰色にて



數個の黒點と黒點列略三條あり。

廿六

### 拼 蝶 科

- 一、コキマダラセ、リ  
翅の表面は橙黄色にして翅脈多し前翅の外縁と後翅の後縁は巾廣くして暗色に縁取らる裏面は鮮黄色なり此の種は色彩に變化多し。
- 二、ヒメキマダラセ、リ  
翅は暗褐色にして紫色を帯ぶ前翅の内半は橙黄色を呈す後翅の中央部は橙黄色にして翅脈にて區分せる裏面は鮮橙黄色なり。
- 三、コチャバナセ、リ  
黒褐色にして縁毛は灰黄色を呈す前翅には白き斑紋數個を有し黄色を呈す後翅の裏面には三四個の黄斑を有す。

- 四、チャバチセ、リ  
暗褐色にして縁毛は灰色を呈す前翅には灰白色方斑數個あり後翅の裏面には方斑列あり
- 五、イチモチセ、リ  
濃暗褐色にして後翅の白方斑は一直線に列ぶこと一の字の如し。
- 六、オホチャバナセ、リ  
前種に酷似すれども翅は少しく廣く兩翅に灰白方斑あり後翅の白方斑は一直線に列ばずして多少出入す裏面は黄色を帯ぶ。
- 七、ミヤマチャバナセ、リ  
前種に酷似すれども後翅の白斑は小形なれども裏面には表面に見たる四點の外翅の基部に近く一點を有す之れ前種と區別する點なり。
- 八、アオバセ、リ  
翅は帶紫黑色にして本邦中大形のものにして翅の基部に美麗なる灰綠色の長毛を生ず

廿七



裏面は一般に緑色にて金色を帯ぶ。

九、ダイメウセ、リ

全翅黒褐色にして裏面も同色なり邊緣は白色の縁毛あり前翅に大小數個の白斑を有し後翅に紋なし。

一〇、チャマダラセ、リ

全翅は暗褐色にして小白斑あり殊に前翅に多くして後翅に少なし裏面は帯緑褐色にて斑紋明なり。

一一、ホソバナセ、リ

暗褐色にして前翅に大小白斑七個を有す後翅には紋なし裏面は帯緑黄色なり。

一二、ミヤマセ、リ

前翅表面は灰褐色を呈し濃鶯色の波形條理あり後翅は黒褐色にて中に橙黄色の斑紋多し裏面は表面より橙黄色部多し。

一三、シモフリシジミ

翅の表面は暗褐色にて前翅は少しく中央部色淡し裏面は白色を呈し數多の黒點を列すること恰も碁石を列べたる如し故に一名「ごいししじみ」とも稱す幼蟲は竹葉等に生ずる貝殻蟲を食するを以て名を知らる。

一四、ウラゴマダラシジミ

翅は表面瑠璃色を呈し紫色を帯ぶ邊緣の黒褐色は巾廣く翅脈は黒きを以て特異の觀を呈す裏面は純白色にして外縁に二點列を有す。

一五、ウラナミシジミ

翅は表面雄はスミレ色を呈し雌は暗褐色を呈す外縁は黒くして縁毛は灰色をなす後翅に二黒點を有す裏面は一樣に帯褐灰色にして白色漣波狀の細線あり故に此の名あり。

天狗蝶科



一、テングテフ

中形の蝶にして色鬚は非常に發達して鳥の嘴狀を呈す故に此の名あり前後翅の表面爲色にして黄赤色の斑紋を有し前翅の中央にある赤黄色は横に翅を貫き鍵狀をなす前角に近き斑點は小にして往々白色なることあり裏面は一般に暗褐色にして前翅の紋狀は表面に等しくして後翅にては表面の赤色部は微かなり發生の期節により色彩に變化多し。



蝶 報

湯の山附近に於ける蝶類の發生時期の概況を記せんとす然れども年によりて多少の移動は逃れざるなり之れ元來必要の事項にあらざるも聊かたりとも參考の一助ともならばとて附記せしを以て讀者諸士之れを諒せられんことを乞ふ

四。月。

此月には湯の山附近に於ては飛翔すること極めて少くして寧ろ山麓及び村落附近に多し飛翔するものゝ主なるは左の如し。

アゲハ。キアゲハ。カラスアゲハ。ジャコウアゲハ。アオスヂアゲハ。ダンダラテフ。

モンシロテフ。スヂグロテフ。モンシロテフ變種。オツ子ンテフ。キテフ。

ムラサキタテハ。コムスヂ。アカタテハ。サカハチテフ。キマダラヒカゲ。

ベニシジミ。ヤマトシジミ。コシジミ。ツバメシジミ。トラフシジミ。



チャマダラセ、リ。コキマダラセ、リ。

一、アゲハ

湯の山麓なる片倉附近に飛翔する普通種なり。

二、キアゲハ

片倉地藏附近に飛翔すれども普通ならずして稀なり。

三、カラスアゲハ

多く飛翔せず。

四、ジャコウアゲハ

片倉地藏附近に多く飛翔すれども多くは雄なり。

五、アオスヂアゲハ

朽谷附近に多く飛翔すれども未だ稀に見るなり。

六、ダンダラテフ

御在所ヶ嶽三の瀬朽谷片倉附近に産する如く見うけども最早や四月には完全のものを  
見ず。

七、モンシロテフ

湯の山には殆んど飛翔せずと云ふも可なる程稀なり片倉地藏附近に多産なり然れども  
モンシロテフ。後翅外縁に黒線あるもの多し。

八、スチグロテフ

前種に混じて飛翔すれども湯の山に於ては極めて多産にしてモンシロテフに反して多  
し。

九、ツマキテフ

釣橋以東に多し。

一〇、オツチンテフ

山中には飛翔せず山麓の附近紫雲英田に多く飛翔す。



一一、キテフ

前種と同じけれども山中に於ても往々飛翔するを見る。

一二、ツマガグロキテフ

全山に稀なり。

一三、コムステテフ

釣橋以東に多産にして殊に片倉附近に多し。

一四、アカタテハ。ルリカテハ

稀に見る所なり。

一五、サカハチテフ

湯の山に春生飛翔すれども余り多産ならず。

一六、ベニシジミ

釣橋以東に極めて普通なり。

一七、ヤマトシジミ。コシジミ。ツバメシジミ

全山至る所に飛翔す。

一八、トラフシジミ

片倉附近に飛翔す。

一九、コキマダラセ、リ

釣橋以東に普通なり。

二〇、チャマガラセ、リ

繪野栃谷附近に多し。

五。月。

此の月に飛翔する主なるもの左の如し。

アゲハ。キアゲハ。クロアゲハ。ヲナガアゲハ。ジャコウアゲハ。アオステアゲハ。  
スヂグロテフ。キテフ。モンシロテフ。オツ子テフ。アサギマダラ。



イチモンヂテフ。コムスヂ。ムラサキタテハ。

サカハチテフ。クロヒカゲ。ヒメウラナミジヤノメ。ゴマダラテフ。

トラフシジミ。ミドリシジミ。ベニシジミ。

ダイメウセ、リ。ホソバセ、リ。コチャバネセ、リ。

一、アゲハ

上旬に於て見るなれど未だ山間には飛翔せず。

二、キアゲハ

絶えて山間には見ざれども片倉附近に見る。

三、カラスアゲハ

此月に至りて全盛を極む。

四、クロアゲハ

下旬には早や全盛期を過ぐ。

五、オナガアゲハ

上旬最も盛に飛翔し下旬に至りては少し。

六、ジャコウアゲハ

上旬に於て見るのみ中旬下旬に於ては絶て其影を見づ。

七、アオスヂアゲハ

此月に飛翔し中旬下旬に於て全盛期をなす。

八、モンシロテフ

最早や夏生にして下旬に於て多し山中に於て見るは此の下旬にして以前は次に記する所のスヂグロテフなり。

九、スヂグロテフ

下旬に於て余り影を見ず。

一〇、キテフ



多く飛翔せず。

一一、モンキテフ

下旬には最早や多産ならず。

一二、アサギマダラ

多産と云ふにあらざるも稀に飛翔す然れども高く飛翔するを以て採集困難なり。

一三、イチモンヂテフ

下旬に於て初めて影を見る。朽谷附近に多し。

一四、コミスヂ

下旬に於て少しく減す。

一五、ゴマダラテフ

村落附近に於て稀に見る。

一六、ムラサキタテハ

下旬に稀に飛翔を見る。

一七、サカハチテフ

下旬に於ては極めて稀なり。

一八、クロヒカゲ。ヒメウラナミジヤノメ。コジヤノメ

三種共に中旬下旬に於て最も盛に飛翔す。

一九、トラフシジミ

下旬に於て稀に見る。

二〇、ミドリシジミ。ベニシジミ

少しく飛翔すれども下旬に於て其數を減す。

二一、ダイメウセ、リ。ホソバセ、リ

全盛時代なり。

二二、コチャバネセ、リ



稀に飛翔す。

六。月。

此月及七月は五月と大同小異なれば別に記せず唯種名のみを列記す然れどもヒヨウモン属は此月より大に飛翔す。

アデハ。カラスアゲハ。クロアゲハ。オナガアゲハ。アオスヂアゲハ。

スデグ。ロテフ。モンキテフ。モンシロテフ。キマダラヒカゲ。コジヤノメ。ヒメウラナミジヤノメ。イチモンジテフ。コムスヂ。ルリタテハ。ヒヲドシテフ。ウラギンヒヨモン。メスグロヒヨモン。

アサギマダラ。

ベニシジミ。ルリシジミ。ムラサキシジミ。ウラゴマダラシジミ。オホミドリシジミ。

ダイメウセ、リ。コチャバネセ、リ。

七。月。

六月と異ならざるを以て畧す。

八。月。

此月は最早や蝶類は少し。

附 記

テングテフ

湯の山には稀れに見る所にして此種は初めて大正二年十月二日同山涙橋附近墓地に於て採集せしものなり。

シモフリシジミ

湯の山には稀品にして初めて大正三年八月十六日同山三の瀬より三町程登りし道路上に於て採集す。



菰野湯の山案内畧記



## 菰野湯の山案内畧記

該山に採集を試まれむ諸士のために案内として畧記す、されば記する所は要あるのみ。

## 湯の山

湯の山たるや四日市を巨る西方三里なる菰野町西方に聳ゆる御在所嶽鎌ヶ嶽國見嶽等の高峯に圍まれ唯東方の一面遠く展きて遙かに伊勢灣を隔て尾張三河の五陵を望むべく四圍の連山は聳へ或は肩を低くす山中奇巖怪石を以て満たされ高山植物は到る所に同好者を迎へ溪流に憩へばそこに優しき秘曲を開き高岳に攀ちては奇しくも巖たる靈氣に浴し春の花夏の綠葉秋の月冬の雪何れの季にか人をして杖を曳かしむるに適する絶好の勝地にして殊に土地高燥なるため避暑地として世に知らる加ふるに諸病に卓効を有する温泉ありて一層山の名聲を世に傳ふ四五月の候に至れば岩躑躅は全山に散在して花を開き綠葉奇巖と相交りて山相を飾り岩櫻は優しき花を開き石南花は高き峯峯に我れを得意顔に咲き乱れ其の爽觀は云ふもさらなり而して春過ぎ夏去りて秋の期になれば楓樹雜木は紅を裝ひて人を迎ふ

## 温泉の沿革

湯の山名勝案内記に依れば人王四十四代元正天皇の御代養老年中に僧淨薫は衆生の病苦を救はんがため薬師如來に誓願

を爲し當山に入りて日夜誦經懈らざりしに或夜醫王善逝夢魂に入り三嶽の下二の瀧の南湯守山(一名女守山)と稱する所に温泉ありと告げ給ふ淨薫大に喜び直に衆庶に傳へ病苦を靈泉に洗はしむるに卓効ありし其後大同年中に至り天臺宗の開祖傳教大師東國に垂化せんとして先づ此の温泉に身を靜養し給ひ其の奇効に感じ大に露泉を擴張せらる其後保元平治の乱に士民騷擾離散し爲に此の温泉を語るものなきに至りしに漸く慶長の始に及び一樵夫の夢知る所となりしにたま<sup>く</sup>濃州の婁者醫王の靈夢に感じ來て療浴を求むるに遇ひ、互に其の夢の相ひ合するを喜び力を協せて温泉を探り試浴せしに日を待たずして癒へり茲に於て遠近の人は相傳へて來り浴する者引きも切れず集り愈々隆盛の域に達せしに慶長の末賊徒起りて民財を奪ひしたため小民安からず浴客遂に跡を絶ち殆んど廢滅の非運に沈みたり然る所貞享四年郷民相語り太守土方正雄豊公に訴へ再興を圖りしに大守其意を賛し請ふ所の者に命じて重修せしめられ遂に昔に倍して盛運に向ひ山中怡も都邑をなすに至れり今日に於ては新築の浴室を設けられ諸設備あり浴者をして爽快ならしむ。

## 温泉の名稱及効用

昔傷つきたる鹿ありて温泉に浴せしに其の婁部全く癒へる傳説により鹿の湯とも云ふ又一名薬師如來によりて發見せられしを以て薬師湯とも云ふ。

此の温泉の内務省大阪試験所分拆表を擧ぐれば左の如し



鑛泉

温度は氣温攝氏二度の際湧出口に近き箇所に於て攝氏二十九度(華氏八十六度)を示せり  
定量分析

本水は無色透明にして殆んど臭氣なく反應は亞兒可里性を呈し比重は攝氏十五度に於て一、〇〇〇六なり今之が試験を  
遂ぐるに其毎千分中に檢出せる固形物の總量は〇、一四にして各成分の含量左の如し。

格魯那馬留誤、〇一八 格魯可兒誤、〇〇五 硫酸カルシウム、〇〇三 炭酸ナトリウム、〇七四 炭酸カルシウム、〇〇  
四 硅酸、〇一七 酸化鐵及礬土少量、硼酸痕跡、磷酸痕跡、マグネシア少量、遊離及半結合炭酸痕跡、有機物痕跡、  
右分析の成績に依れば本泉は單純溫泉に屬す

醫治効用

(浴用)筋及關節痠痛、慢性濕疹、ヒステリー、脊髄勞、半身不遂、婦人生殖器の慢性諸病、腺病。

(内用)胃加答兒胃痛、下痢催進の腸加答兒、

附記 近年本泉はラジウムを含むとの試験成績に依り一層効用ありと。

名所舊跡

冠峰山三嶽寺

寺は大同年中僧最澄の創設七堂伽藍の巨刹にして國見嶽中腹に在りしがしばしば兵火に罹り焼かれ以て永正の季遂に寺  
基を湯女守山の下に移し現寺あるに至れり本尊は藥師如來にして開祖傳教大師の御自作なりと傍らに覺信阿闍梨眞作の  
不動尊を安置す同寺は眺望佳絶のたり。

芭蕉翁の古跡

芭蕉翁富山に來浴し碑銘を三嶽寺境内に建つ。

有名なる赤穂義士大内義雄は當溫泉に留浴せしと。

蒼瀧 溫泉場より北八丁此の道稍や困難にして瀧の直下するこま十數丈なり。

大石 溫泉場より三丁にして重量二十萬六千二百八十五貫ある大石あり。

百間瀧 潜門瀧、長石瀧、女夫瀧、取水瀧、見返瀧、の諸瀧あり。

長石 溫泉場より西六丁の所にあり

其他景色の佳絶なる所或ひは名所は到る所散在しあれども之れにて筆を止む。

湯の山登山順路



四日市驛に下車し菰野街道を西に進めば菰野城趾なる菰野町に至る此所は戸數人口共に比較的多くして市街をなす町を直進し四方すれば中菰野に至り地藏片倉の諸村を見て三瀧川の上流に達すこの所に四日市鐵道株式會社の經營にかゝれる輕便鐵道の終点たる湯の山驛あり四日市より此の便に依れば約一時間にして達すこの湯の山驛は名こそ湯の山なれど實は登山口にしてこれより湯の山道に入る所にして驛前に待合所茶店等ありて賑ふそれより三瀧川を渡りて山路を進めば朽谷茶店に至り暫らくすれば釣橋に達す橋下清流あり奇岩あり其觀好しそれより森林中を潜り進めば三の瀨に至る茶店あり此に暫らく憩ふ價値あり猶も足を運び板橋渡橋を過ぐれば早や館旅等の囊を仰き見るそれより道は昇りとなり曲折して登れば湯の山に達す現今は杉屋壽亭の二旅館數棟を設け其他茶店等ありて共に設備至れり。

附記 採集者に取りては輕便にて菰野驛に下車し徒歩にて登山するを適當とす。

大正四年十月廿五日印刷  
大正四年十一月十日發行

版權  
所有

編輯者兼  
發行者

三重縣四日市市藏町十番屋敷  
山内甚太郎

印刷者

三重縣四日市市新丁二百三十四番屋敷  
松尾民治郎

印刷所

三重縣四日市市新丁二百三十四番屋敷  
三重印刷所  
電話百十七番

發行所 四日市昆蟲研究會

339  
594



339
594



終